

# 潮流

鳥取県が全国に誇れるものを挙げてみると、二十世紀梨収穫量、ベニズワイガニ漁獲量、カレイ・カニ・イワシ・カレールーの家計消費、朝の読書実施率、世界遺産を目指す三徳山三仏寺投入堂などがあります。

どれもお国自慢として、鳥取県民として他県の方々に説明できるようにしておきたいものです。

このようにしてみると、全国一小さい県ながら、他にも全国発信できるものはたくさんあると思います。夏は海水浴、冬はスキー（今はスノーボードでしょうか？）ができる場所まで車で三十分あれば着いてしまうという、都会の友人たちは皆うらやましがります。こんな自然に恵まれた故郷を誇りに思うのは私だけでしょうか？

一度は都会に行つて、新しい刺激を受けて、広い視野を身につけることも必要だと思いますが、やはりこれからの健康と地球環境を最優先した生活様式LOHAS(Lifestyles Of Health And Sustainability)には、鳥取県はびつたりだと思えます。

さて、こんな鳥取県から全国発信できる鳥取発のもの(初物!)が、また二つできました。一つは「鳥取発心のふれあいプロジェクト全国集会」と、もう一つは「鳥取発メディアとの接し方フォーラム」です。

鳥取発心のふれあいプロジェクト(心プロ)全国集会は、四年前に私と鳥取大学医学部高塚人志助教教授(元鳥取県立赤碕高校教諭)がコミュニケーション授業の取り組みを残したいというメールのやり取りの中から生まれまりました。乳幼児期からの親子関係づくりや小・中・高校生の人間関係を改善できるよう、まず、子どもたちを取り巻くわれわれ大人が学び、情報交換しながら実践に移していける場を提供し、大人から子どもまでの人間性を回復することを目的として、「人間性回復プロジェクト」という名前で始まりました。しかし、人間性を回復するななどというあまりにもおこがましい名前を、昨年から肩の力を抜いて、ふれあいを大切にして、優しくわかりやすい「心のふれあいプロジェクト」に名称変更しました。

## 鳥取県から発信できるもの

松田 隆

NPO法人未来副理事長、鳥取県中部医師会副会長

九月二十五日のこの「潮流」欄で、鳥取短期大学講師の野口先生も書かれていましたが、学生に企業が求めている能力の一位はコミュニケーション能力、三位が協調性で、今の社会では人間関係をうまくつくれ、協調性のある人が求められているのだと思います。そういった意味でも、心プロの取り組みはいろいろなところで求められており、今年十月に金沢でも全国集会在開催され、全国的な広がりをみせています。

一方のメディアとの接し方フォーラムは、県の教育委員会が、子どもとメディアにかかわる人たちに呼びかけ、昨年から実行委員会を立ち上げて始めました。平成十五年に鳥取県PTA協議会がテレビメディアのアンケート結果を、第51回の日本PTA全国研究大会鳥取大会で発表したのをきっかけに、平成十六年度より県の教育委員会がメディアリテラシー啓発推進事業をPTAに委託し、各地域でノーテレビデーなど子どもとメディアのよりよい関係づくりをめざして取り組まれてき

2006.10.6



ました。

これからはメディアとかわることなく生きていけない時代です。今後、子どもから大人までメディアと上手につきあいながら、問題解決できる受け皿を作ることが目指して、フォーラムは全国に先駆けて発信していきます。いずれの取り組みも子どもの未来にかかわる問題として、われわれ大人が本気で考え、発信していかなければならないことだと思えます。

(倉吉市)

## 読者のひろば



門脇 きよ(岩美町馬場)